

## 地元部会の開催実績

平成25年10月16日

薩摩川内市

去る7月4日(木)に薩摩川内市次世代エネルギービジョン推進会議第1回地元部会(以下「地元部会」)、8月7日(水)に第2回地元部会、9月20日(金)に第3回地元部会が開催されたところ、その概要は以下のとおり。

## 【ポイント】

## 1. 第1回地元部会(7月4日(木))

- (1) 次世代エネルギービジョン推進会議の開催を見据え、昨年度策定した次世代エネルギービジョン及び行動計画の概要、推進会議や地元部会の位置づけ、具体的実施事業の概要等について委員間の共通理解を図った。
- (2) 来年度実施する事業に関し、基本的考え方に関する共通理解を醸成するとともに、街路灯のLED化など具体的事業の実現に向けた方策等について委員から意見等をいただいた。

## 2. 第2回作業部会(8月7日(水))

- (1) 具体的実施事業の進捗状況等について説明を行うとともに、今年度実施予定のスマートハウス実証事業に関し、基本的考え方や基本概念等について委員間の共通理解を図った。
- (2) 来年度実施する事業に関し、基本的考え方に関する共通理解を醸成するとともに、生活サポートサービスなど具体的事業の実現に向けた方策等について委員から意見等をいただいた。

## 3. 第3回作業部会(9月20日(金))

- (1) 具体的事業の進捗状況、来年度予算概算要求、更には国のエネルギー政策の議論の動向等について委員間の情報共有を図った。
- (2) スマートハウスについて、前回会合で出された意見やスマートグリッド実証試験に係る市民アンケート等の結果を踏まえ、新たなエネルギー需要管理の仕組みを念頭に置いた市民生活サポートの内容及び優先順位等について委員から意見等をいただいた。

## 1. 第1回地元部会

### (1) 主な議題

- ① 推進体制とスケジュール(案)
- ② ビジョン及び行動計画の概要
- ③ 現在の事業の概要について
- ④ 来年度に向けた事業についての考え方(案)
- ⑤ 街路灯のLED化に向けた検討

### (2) 委員からの主なコメント

#### ① 推進体制及び具体的事業等について

- (ア) それぞれの事業について、何を選択するのか基準の検討が必要。その上で取捨選択をしていき事業評価をすべき。
- (イ) 色々な市民生活課題を提示して具体的対策が出ているが、同時に実施するのは難しいので、工程表でテーマ等を絞り込んでいくことが大切。また、具体的事業を上手にPRしていくことがよい。
- (ウ) 市民生活の部分は具体的に出ているが、産業活動、都市基盤整備の来年度以降の計画について指針を出してほしい。
- (エ) 市の各課所が施策や事業を進めていく中で、他の部署の理解を促しながら一緒に進めたほうがよいものもある。
- (オ) エネルギー分野のビジネスは損失等の心配等もあり、地元の中小企業はなかなか先に踏み出せないなので、市が保障するなどの仕組みも検討してほしい。
- (カ) 子供の防犯体制やパトロールも広範囲だと対応が難しいが、身近な防犯対策をエネルギーの観点から解決できないか。
- (キ) FMさつませんだいはリスナーが増えているので、もっと次世代エネルギー等のPRをしていくべき。

#### ② 街路灯のLED化に向けた検討について

- (ア) この事業を具現化していくにはかなりのエネルギーがいるので、まずは市民の認識を高めるべき。
- (イ) LED導入については、賢い使い方のアピールになるので、まず付いていない所に設置するのが効果的では。手法としては、ESCO事業は魅力的と感じる。
- (ウ) LED街灯については、いつまでに実施するのかなど勘案する必要がある。大きく取り上げてもらうのであれば、イベント等を実施することも一案。
- (エ) LEDの導入は、市民が次世代エネルギーに係る市の取り組みをより実感できるもの。

(オ) 事業の具現化に当たっては、地元の参画意識を高めるためにも、地元企業への発注をお願いしたい。

## 2. 第2回地元部会

### (1) 主な議題

- ① 現在の事業の概要
- ② 来年度に向けた事業についての考え方(案)
- ③ スマートハウス建設に係る基本的考え方(案)
- ④ スマートハウス実証事業プロジェクト概要
- ⑤ 生活サポートサービスのイメージ(案)

### (2) 委員からの主なコメント

#### ① スマートハウス実証事業について

(ア) 現段階の取組として、スマートハウスの運営面や活用について、コンセプトをしっかりと持って設計することが大切。

(イ) 目を引くデザインは面白いが、大切なことは地元で施工等ができること。

(ウ) 今回の提案は住みやすい家の提案であって、市民のニーズ等は反映されていないと感じる。実際の市民ニーズ等がどこに反映されているのか明確にすべき。

(エ) 住環境という意味では、内容的にも幅があり面白いが、市民生活の観点からは乖離があると思われる。スマートハウスの大義の部分を明確にすべき。

(オ) ビジョン策定委員会では、スマートな生活のあり方として安全・安心等を提案していくことが議論されたが、今回の提案ではそれが抜けている。また、市民が高齢化していくという視点についても反映されていない。

(カ) 市民の方々が若年者から高齢者まで共感できるかということも大切であるが、同時に外から人を呼ぶという視点から見るととても良い。

(キ) スマートハウスを多くの人に見てもらうには、イベントが必要であると考えるが、FM さつませんだいを活用して効果的にPRするなど、市の宣伝等の一環としてすべき。

(ク) 提案にはスマートハウスの重要な機能であるHEMSの話が出ていないが、電力消費量の見える化、家電製品の制御、高齢者の見守り、健康管理などの検討もしている。

#### ② 生活サポートサービスについて

(ア) 生活系のサービスに関し、ゴールド集落等については、やはり買物、防災、防犯など生活サポートは必要。市がどこまでサポートできるかであり、その関連で事業者のビジネスになる。

(イ) スマートハウスに絡めて言うと、どの機能を選択するのかについては、困り事などの課題対応を家の中で実現できるとよい。

### 3. 第3回地元部会

#### (1) 主な議題

- ① 現在の事業の概要
- ② スマートハウスに備える設備(案)
- ③ デジタルグリッドの概要
- ④ スマートハウスで実現したい生活サポートサービスについて

#### (2) 委員からの主なコメント

##### ① スマートハウスで実現したい生活サポートサービスについて

- (ア) 子供の見守り体制の構築は大切だと感じるので、スマホを持たずとも親が子どもの居場所を確認できたり、容易に連絡が取り合えるシステム等を構築できないか。
- (イ) 市内ではますます高齢化が進むと予想され、それと同時に医療難民、買物難民、交通弱者なども増えていく。優先度を踏まえながらニーズを正確に反映したICT活用型の生活サービスの提供が期待される。
- (ウ) 市民ニーズが明らかになり、サービスの提供が始まることは望ましいが、コスト的に成立するかが不明。スマートハウスへの過度な投資があるとすれば、整備費を減らしてでも生活サポートサービスの実施や継続に必要な費用に充てるべき。
- (エ) 資源ゴミの細かい分別など高齢者等には厳しい作業であり、このような時に高齢者が介助を要望できるようなシステムがあると助かる。
- (オ) 緊急時対応をサポートするシステムの優先度は高い。例えば高齢者が救急車を呼ぶ前の段階で、ワンタッチで危険を通報できるシステムなどが構築できると良い。

##### ② スマートハウスについて

- (ア) スマートハウスに関してはデザイン性を重視しているが、維持管理コストがどの程度かかるかを明確にしておくべき。
- (イ) 外見も重要であるが、来訪者も楽しめる仕掛けが用意されているなど、中身の充実の方がより重要度は高い。
- (ウ) スマートハウスの設備は若者向けだと感じるが、高齢化社会を踏まえると高齢者にとって使いやすいシステムを組むことが必要。
- (エ) スマートハウスには、環境負荷軽減、CO<sub>2</sub>削減を効果的に伝えることができる見える化はもとより、子供も楽しめる様々な仕掛けを用意しておくべき。

(オ) スマートハウスは、エネルギーに関して何割か削減と言うよりも、削減に寄与するツールを学ぶ場。薩摩川内市に人を呼ぶという点では、斬新なデザインやイベントなど、そこで何をしていくのかを明確にすべき。

(カ) スマートハウスでは、高齢者にとって使いやすいキッチン等を採用して欲しい。また、バリアフリー改修等を希望する人にとって、参考になる設備の展示空間的な性格になると良い。

### ③ その他

(ア) スマートハウスの模型を用意してもらい、それを使った説明を受けることは可能か。また、HEMSについても、エネルギーの見える化や生活サービスメニューのイメージをタブレット画面などで用意してもらえるとイメージしやすい。

以上